# ASAIO参加印象記

大阪大学大学院医学系研究科心臓血管外科
宮川 繁
*Shigeru MIYAGAWA*

2024年5月29日から6月1日まで，米国バルチモアのBaltimore Marriot Waterfrontにおいて，American Society for Artificial Internal Organs（ASAIO）主催の70th Annual Conferenceが行われました（**図1**）。

実は，私は大学院生時代（今から20年ほど前）にASAIOに参加させていただいてから，その後一度も参加したことがなく，「約20年ぶりの学会参加で，どんな学会に成長したのか見てみよう」と心を躍らせながら参加いたしました。同時に大学院生時代に参加した当時のこと，そしてASAIOと私との縁を思い出しておりました。

大学院生時代に参加した際には，同僚の大学院生は体外循環や日本での人工臓器事情〔当時は体外式補助人工心臓（LVAD）が主流でした〕についての研究成果を発表する一方，私は当時再生医療を始めておりましたので，ラット新生仔の心臓から心筋細胞を抽出し，東京女子医科大学の岡野光夫先生や清水達也先生が開発された温度応答性培養皿を用いて作製した，心筋細胞シートをラット梗塞モデルに移植した基礎研究を発表しました。その発表で，なんと2004年にASAIO Medforte Innovation Awardをいただき，同賞は私にとって人生で初めての学会賞で，大変意義深い学会でした。同学会で受賞式が行われ，「何かコメントをと言われたら，こういう具合に話すように」と当時，大阪大学第一外科教授を務めておられた松田　暉先生に教えていただき，大変緊張しながら国際学会の表彰台に立ったのを覚えています。

今回は，IFAO（International Federation for Artificial Organs）sessionで座長と講演を務めてまいりました。残念ながら聴講していただいた参加者は少なく，また全体的に日本からの参加者も少ない状況でした。今後，日本人工臓器学会は海外の人工臓器関連学会とどのような関係を築いていくのか，関連している先生方はどのように世界に対応していかれるのか，少し心配になってきました。一方，円安の状況で交通費などが大変高騰して海外に行きにくくなったという事情もあり，これは日本全体の問題かとも思いました。

**図1**　会場：Baltimore Marriott Waterfront

他のsessionの発表も聴講してきました。当たり前のことですが，20年前は人工心臓など「これぞ人工臓器！」といった演題ばかりでしたが，現在では多様性を感じ，「こんな話をこの学会で聞けるのか」と驚く演題が多数ありました。例えば，超未来型の発表として，ヒトの臓器をバーチャルでコンピュータ内で再現しようとする試み（バイオデジタルツイン）について講演されていました。こういった内容の講演を，日本人工臓器学会もどんどん取り入れていくべきと思った次第です。

この印象記を御覧になっている先生方には世界を知るべく，ぜひとも来年のASAIOに参加していただき，今後の人工臓器の方向性を模索されることを願ってやみません。

本稿の著者には規定されたCOIはない。

■ 著者連絡先
大阪大学大学院医学系研究科心臓血管外科
（〒565-0871　大阪府吹田市山田丘2-2）
Email. miya-p@surg1.med.osaka-u.ac.jp